

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800072		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	ファミリア小坂		
所在地	岐阜県下呂市小坂町坂下716-1		
自己評価作成日	令和8年2月20日	評価結果市町村受理日	令和8年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2192800072-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和8年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然環境に恵まれ、施設内で四季折々の野菜果物などを栽培・収穫し食材に使用したり、利用者様と共に調理し召し上がっていただいています。利用者様の役割を考慮し、以前と変わらない生活をする事で生きがいを少しでも感じて頂けるよう過ごして頂いています。施設は国道41号線沿いにあり利便性にも優れており、災害時には地元地区の一時避難所として指定されており、地域の一員としての役割を担っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周辺は緑が多い自然豊かな環境であり、事業所は飛騨川沿いに立地している。建物の2階をグループホームとして運営、室内は整理整頓されており、利用者は、ユニット間の廊下を利用して下肢運動を行うこともできる。管理者は、職員と常に話し合いや情報共有を行い、皆が、やりがいを持って働けるよう環境を整えている。毎月、様々な研修を実施し、研修後はレポート提出を必須とし、理解を深めている。利用者が以前と変わらない生活を続けられるよう工夫し、できることは手を出さずに見守り、常に利用者の思いに寄り添い、本人が満足できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である【地域に根ざす優しさ安らぎ信頼】は職員の名札・玄関などに明記し、理念を常に意識し介護サービスの提供ができる様意識している	職員は常に理念を意識しながら利用者に関わっている。馴染みのある飛騨弁を日常会話の中で使うことで、自然と利用者の笑顔を引き出している。新人職員には理念が書かれている名札を渡すと共に、理念の意義を伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議のメンバーとして地域の役員の方に毎回参加していただいている。毎月広報誌を回覧していただき施設の様子をお伝えしている。また地域の行事に参加させて頂いている	春祭りに獅子舞の訪問があり、利用者を楽しませている。運営推進会議の構成員である区長からは、地域の環境整備や様々な情報を得ており、防災訓練への参加に繋がっている。時には入居相談に訪れる家族もあり、地域とのつきあいを大切にしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に会議を開催し、地域・利用者・家族・行政の方から浩樹意見を頂戴している 入居状況、行事、ヒヤリ、事故等報告している 頂いたご意見を運営に活かし改善に繋げるようにしている	運営推進会議案内を構成員や家族に送付し、参加を促している。出席者も多く活発な意見交換を行っている。今までは隔月ごとの運営推進会議開催であったが、令和8年度から現場の負担軽減やサービスの質の向上を図れるよう、規定回数の緩和があり、3ヶ月に1回となっている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢福祉課・地域包括支援センターの方には報告。相談させていただいている 運営推進会議にも毎回参加していただいている 措置入所などの依頼、対応もさせて頂いている	運営推進会議には行政職員の参加があり、人材確保の相談や災害時の受け入れについて話し合っている。社会福祉協議会からは、入居受け入れ相談があるなど、行政と連携体制を整え良好な関係を築いている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は年2回身体拘束の研修を受け弊害を理解し拘束しない努力・工夫をして拘束等が必要な場合は、毎月経過観察、再検討し見直しをしている また3か月ごとに適正化委員会を開催している 委員会も設置している	3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催している。毎月の職員会議でも話し合いを重ね、報告内容を共有している。やむを得ず拘束が必要な場合は家族に説明し同意を得ている。職員で検討しながら早期解除に繋げ、身体拘束をしないケアに努めている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は年2回虐待防止研修を受け、どのような行為が虐待に当たるかを学び、ケアの上での注意点、声掛けの仕方など気を付けている 気づいたこと管理者に相談・報告できるようにしている 施設内委員会で毎月の目標決め実践している	指針の整備と定期的な虐待防止研修を実施している。毎月の虐待防止委員会では、目標を設定し、目標達成に向けて取り組んでいる。職員は、普段のケアを見直ししながら、「傾聴」を意識した対応を行うことを目標とし、結果や利用者の反応をモニタリングしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	前年度は行政に相談し措置入所対応や成年後見人を付けていただく対応をした 今年度は対象者はいない		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や契約時に施設の方針・内容・費用等を説明し理解・納得された上で契約を交わしている 質問・不安があればその都度、話を聞き対応している		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進委員会で出た家族の意見・要望等は議事録として毎回資料を全員に送付し、グループホーム専用の携帯電話に要望など頂いた場合、管理者にも報告している	便り「おたっしや倶楽部」にて、利用者の写真や近況報告、運営推進会議の案内や報告、面会についても伝えている。利用者の表情が良く撮れた写真は大きく引き伸ばし、便りと一緒に送付している。運営推進会議や面会時、電話やメールで家族の意見や要望を聞き、運営に反映させている。	毎月発行の便りで、利用者の様子を伝えているが、家族に伝えきれていないことも多いと思われる。それぞれの家族の意向や細かい要望を把握する為の工夫に期待したい。
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の人事評価制度を活用し職員の意見や提案を聞く機会を設けている 管理者は常時職員の意見を傾聴し改善するように努めている パート職員に関しても勤務時間の変更など要望に応じれるようにしている	管理者も普段から現場に入っており、職員の意見を聞いたり、相談しやすい関係ができています。業務改善についての意見を聞くことも多く、できることは早急に対応し運営に反映させている。主任も職員の表情を見ながら声をかけ、話を聞いている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年2回の人事評価制度を活用し職員が努力したこと、目標ややりがい把握し、向上心を持ち働けるよう努めている 評価が基本給に反映する 予定に合わせ勤務調整している	職員の希望休や有休休暇の取得、休憩時間や休憩場所の確保、外国籍職員には寮を提供するなど、職員が働きやすい職場環境作りに努めている。人事評価制度があり、職員の自己評価を主任と共に確認し、個別面談も行っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に対しては利用者個々の対応のファイルを作成し日々の対応を指導している 毎月研修を行いレポート提出により理解度を確保している 法人外の研修には勤務調整など参加しやすい環境を整備するよう努めている	毎月、研修を実施し、レポート提出で理解を深めている。外部研修や資格取得案内等の情報を公表し受講につなげている。外国籍職員が分かりやすいよう、利用者の名前にフリガナを付けたり、研修や生活指導など、幅広いサポートを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流は出来ていないが、法人内の会議でサービスの向上につなげている 行政主宰の公演会・研修会に参加している Web会議・研修に参加し交流できている 管理者は市の事業所懇談会・集団指導に参加している		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、食器洗い、洗濯など楽しんで一緒に 行い良い関係を築き、共同生活をしていること を感じて頂けるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や様子などで、希望や思いを把握しより良いケアに繋げ、柔軟な姿勢で希望に添える様検討している	利用者との日々の会話や様子から、思いや意向を把握している。様々な場面で、利用者の表情を見ながら、短い発語からも思いを汲み取るよう努めている。新たに知り得た利用者の情報は、職員間で共有している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成前にご家族様にカンファレンスへの参加を確認し、出来るだけ参加していただき、ご意見・ご希望を頂いたうえで、話し合い介護計画を作成している。	サービス担当者会議に、家族参加を呼びかけたことで出席する家族が増えている。担当職員や看護師、夜勤者や歯科医等の意見も取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングはケアマネジャーが定期的に実施している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には様子・発言・行動などを記録し、職員間で周知・共有した上でケアの見直しや実践ができる様に努めている	利用者の状態変化についての気づきを、個別記録や業務日誌に記録している。メモ書きや口頭でも共有し介護計画の見直しにも活かしている。外国籍職員は、ヒヤリハットや事故報告書、記録以外の報告書の書き方等も、他の職員からサポートを受けている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時々状況・ニーズにより受診付き添いなども対応しており柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。また歯科と連携し口腔ケア、フレイル予防に努めている	理・美容室の訪問や病院への送迎支援等、利用者や家族のニーズには柔軟に対応している。定期的に元職員の協力を得て、おやつ作りやレクリエーション活動等を行い、利用者が楽しめるサービス提供に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理容室・美容室の方に訪問して整髪していただいている 地元の福祉委員の訪問もあり老人会の冊子・記念品なども頂くこともある		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の支援でかかりつけ医を定期的に受診し指導していただいている 急変時には必要な医療が受けれるよう連携している 家族が対応できない場合は有料で送迎・付き添いをしている 契約者のみ訪問診療は月2回、訪問歯科毎週 衛生士は週2回定期的に入っている	従前のかかりつけ医の選択ができることを利用者・家族に説明している。多くの利用者が協力医を選択し月2回の往診を受けている。看護師を職員として配置しており、日々の健康管理や緊急時の対応など、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には介護・看護サマリで情報交換している 入院中の様子・情報で対応の変更など検討している また必要な時は退院前の訪問もしている	救急搬送に備え「緊急時個人情報」ファイルを作成し、いつでも対応できるようにしている。入院の際は、病院へサマリーを提供するなど、連携を図っている。退院時は看護師やケアマネジャーが利用者の状況を確認し、受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない 入居時に【重症化した場合の指針】の説明し同意を得ている 重度化・終末期に対する意向を確認し、特養入居の希望などを含め入院など本人・家族の望まれる支援をしている	契約時に重度化や終末期についての方針を説明し同意を得ている。看取りは行っていないが、でき得る支援を看護師やケアマネジャーが中心となり対応している。介護度や医療依存度が高くなった場合は、特別養護老人ホームや医療機関の情報を家族に提供している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師により救急時の対応を学んでいる 転倒・発熱・嘔吐などそれぞれのマニュアルを作成して定期的に訓練を行っている		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員に来ていただき火災訓練で消火避難誘導を学び指導していただいている 消火設備点検、消防立ち入り検査も定期的に受けている BCPは資料を配布し役割の確認をし研修もした 地域の避難場所になっており備蓄品の確保をしている	年2回の災害訓練や消防署の指導の下、AEDを使用した救命講習を年1回実施している。2階に設置している担架を使った訓練も実施している。各委員会による避難・通報・消火等の訓練、災害時の役割分担を確認しながら、課題を把握している。外国籍職員も避難誘導ができるよう、声掛けをしながら訓練を行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替え・排泄・入浴などプライバシーを損ねない対応や声掛けを心がけている ドアやカーテンの開閉時・排泄の声掛けをするときには特に注意し配慮している 個室の名札は名前のみ表記している	職員は、居室への入室時や利用者支援をする時の声掛け、脱衣室でのパーテーションやカーテンの使用など、常に、利用者のプライバシー保護や羞恥心に配慮している。便りに掲載する利用者の写真については、家族の同意を得て、希望に沿った対応をしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	想いに添えるよう支援・対応している 希望があれば可・不可に関わらず職員で共有し支援できるように努めている		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、寄り添う支援を心がけている どのように過ごしたいか、何をしたいかをお聞きし、希望に添える支援をしている		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分のペースで食事をされている 毎食のテーブル拭き・湯飲み洗い等はなるべく多くの方にお手伝いしていただいている 味噌汁作りは週2回材料切から味見迄、できる範囲で参加していただいている おやつ作りも楽しんで参加される	事業所の畑で収穫した野菜を、味噌汁の具材や漬物等に利用している。職員と一緒にイチジクや苺摘みをする利用者もある。クリスマス会のケーキバイキングや正月のおせち料理、焼き芋など、季節を感じながら楽しめるよう支援している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や食事・水分摂取量を確認しながら各個人の状態を把握しバランスよく栄養摂取できるよう支援している 個人記録・バイタル表に食事・水分摂取量を記録し状態を確認している		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は声掛けし口腔内を清潔に保てるよう支援している 定期的に歯科衛生士の指導を受け義歯の洗浄に気を付けている 歯磨きなど自分でできる事はして頂き声掛け・補助している	口腔ケアは、起床時と毎食後の4回行い清潔保持に努めている。歯ブラシやコップ、義歯の消毒は職員が行い適切に管理している。定期的に歯科医と連携しながら、口の体操や状態確認など、フレイル予防も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各個人の排泄パターンを記録で確認し、必要に応じて、声掛け・誘導・介助している 無理強いせずトイレでの排泄を促し自立に向けた支援に努めている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが体調や気分により別の日に入浴していただくなど柔軟な対応をしている 湯温・時間等介助の職員が希望を伺い、好みに合わせた支援をしている		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠傾向の方や、下肢に浮腫のある方、臥床を棒される方には、必要に応じて休息していただいている。また歴体操や脳トレ等適度に心身ノ運動をして頂くことで良眠を促している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助の際は、声出しで名前を確認し見守りを徹底し飲み込みまで確認 落薬・誤薬防止に努めている 症状により医療職に相談し指示を受けている 夜間眠前薬使用でふらつきなどある場合にはセンサーを使用し事故防止に努めている	薬は薬剤師がセットし、看護師がチェックして管理している。薬の変更があった場合は業務日誌に記入し、職員間で情報の共有を図っている。服薬支援の時は、名前や日時を声出し確認し、飲み終えるまで見届け、落薬・誤薬防止に努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽作業を希望される方に、洗濯ののたたみ・食器洗い・床掃除・モップ掛けなどをやっていただいている。趣味のぬり絵や折り紙をされる力やもおられる。	居室まで新聞を配達してもらう人、好きなテレビ番組を見る人、塗り絵や折り鶴を楽しむ人、畑の軽作業や掃除好きの人もある。職員は利用者が好きな事をできるよう見守り、気分転換や張り合いにも繋がるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見・紅葉の季節のドライブを楽しんで頂いている 施設周辺の散歩をし外気浴や畑などを見ていただいている 祭りの時期には獅子舞が施設訪問してくださる 家族支援で病院受診や外出をして家族とのひと時を楽しんで頂いている	利用者の体調や天候をみながら、周辺やベランダを散歩したり、季節の花見や紅葉見学へ出かけている。下肢機能の維持を図るため長い廊下の歩行やモップ掛け、階段を使用し備品運びやゴミ捨てを職員と行うなど、生活リハビリに取り組んでいる。家族との受診や一時外泊で出かけている。	利用者全員で花見や紅葉の季節のドライブに出かけている。外出の様子を便りに載せているが、家族に伝わりきれていないことがある。外出支援を行った際には積極的に伝える工夫をし、家族の喜びと安心に繋がる取り組みに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではお金はあまり必要がないが自販機で飲み物を購入される方もいる 外出の際など家族の支援で買い物をされることもある		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もおられ直接家族と連絡されている 施設の電話を使用したりそれぞれに合わせた対応をしている 年賀状をくださる家族も見えるが、全員に渡すよう担当からも出している		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節を感じられるようにレイアウトしている 室温・湿度を管理し心地よく過ごして頂けるよう工夫している 服装でも季節を感じて頂けるようしている 家族の支援で衣類の衣替えの協力をして頂いている 動線上に転倒に繋がるものを置かないように配慮している	共有空間を中心に、左右に2ユニットが分かれている。リビングや廊下は、利用者が安心して移動できるよう整理整頓されている。また、リビングには利用者の塗り絵や習字などの作品を飾り、居心地よく過ごせるよう温・湿度管理も適切に行なっている。ベランダは見晴らしがよく季節を感じる事ができる。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を考慮し、席替えや居場所作りをしている		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたものや写真などを持ってきていただき飾られている 本人の希望で配置換えなど支援し居心地よく過ごして頂いている 安全には配慮している		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行補助用具など活用し安全に移動できるよう支援している 現在は独歩の方も多い 安全に移動できるよう配慮している トイレの案内板は大きな文字にしてある		